

教育・研究等業績一覽

[illegible]

2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 (記述式：900 字以内)	作物栽培の基本と実践力を身につけ、栽培技術が習得でき、生産と流通、地域性、消費、についての理解が深まる様努めた。 実習授業では、物事を思考し判断する能力と実行・実践する技術力が備わることを目標にしている。授業の中で、その基礎を学び、自らが考え行動し応用力を培うことが将来へつながる道であると考えている。そのためには何事に対しても「何故」という疑問を持ち、問題点を探り当て、解決方法を実行に移すことが必要である事に重点を置き、作物を観察する目を磨き、作物を育てることの体験、収穫の際の満足感とおし農業のすばらしさを伝えていく方針で進めているが、学生の中には、関心の薄い学生も散見される。興味を持つことが出来る授業を心掛けたい。 座学では、実践に必要な知識・技術について習得し、自ら考えることができる能力が身につくよう努め、全ての学生に満足行く授業できるよう進めている。	
3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み (記述式：900 字以内)	講義については、興味がわくように配布プリントや板書を工夫し、ppt 等も使用した。また、小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。 野菜実習の班分けについても興味のある作物を中心に学生に分担させ、積極的に作業ができるように工夫し、市場視察や試験場視察などを取り入れている。 また、北海道新顔野菜や栽培の少ない作物などを取り入れて、初めて取り組む栽培への応用力、地域に合わせた特産振興にも取り組む力が身につくよう進めた。	
4 教科書、教材の作成状況 (記述式：300 字以内)	教科書の内容をより良く理解できるよう、写真や動画、図表などをパワーポイントを映写し授業を進めた。図解や後の復習に必要と思われるものは、必要に応じプリントを配布し使用した。小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。	
5 学生の指導（課外活動・厚生補導等） (主要 10 件以内)	2022 年度～ 2022 年度～	果樹研究会顧問 ドローンサッカー部顧問
6 その他 (主要 5 件以内)		
研 究 業 績		
1 研究分野・活動 (記述式：350 字以内)	北海道で研究実績のないラッカセイの酸度の違いがラッカセイの生育・子実にあたえる影響については、酸性調整が適切にできず継続試験が必要だが、子実に対する影響について成果が得られた。本試験は札幌農学校、八紘学園、和寒農業活性化センターと連携試験を実施出来たことは大きい。 北海道新顔野菜のラッカセイ、サツマイモに関しては栽培法、貯蔵法の技術確立から栽培の拡大に努める。 ペボカボチャ（食用種子）における種子の薄皮除去法では、北海道農業研究センターの嘉見氏の研究を引継ぎ、生産者が実戦出来る方法の確立に務める。	
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350 字以内)	生産者からのニーズも有るヒヨコマメの露地栽培方法では、早生品種の活用、雨避けに着目し露地栽培法への影響を継続して行い、露地栽培実現を目指す。 作物の Ni 過剰障害対策を目指す。	

3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費					
	(2) 学内					
	(3) 学外					
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	小型ボイラー取扱					
	普通第 1 種圧力容器取扱					
	食品衛生管理者					
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約	
ペポカボチャ「ストライプペポ」による 地域振興		共	2021 年 10 月	北農第 88 巻 4 号	生産・加工の販売促進体制（産学官連携） について、栽培方法の確立、種子の加工、 販売、需要や販路拡大への取組。	
露地立茎アスパラガスにおける個体別収 量に関する一考察		共	2005 年 2 月	会報第 38 号	露地立茎栽培下でのプラグ苗、大苗定植、 品種別の収量予測	
研究業績（過去 3 カ年分）				国際的活動 の有無	社会的 活動の 有無	
著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
1	1	0	0			
学 内 運 営 業 績						
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2022 年 4 月～ 入試・広報委員会					
	2022 年 4 月～ 学生、地域国際交流委員会					
	2022 年 4 月～ 広報委員会					
学 外 活 動 業 績						
1 本学以外の機関（公的機 関・民間団体等）を通し ての活動 (主要 10 件程度)	2018 年 8 月 土づくり現地研修会（北海道農業協同組合中央会）講師					
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	2021 年～日本土壌肥科学会					
	2021 年～北海道園芸研究談話会					
	2021 年～公益財団法人北農会					
	2022 年～日本作物学会北海道懇話会					
	2022 年～北海道養液栽培研究会					
	2022 年～北海道さつまいも懇話会					